

平成30年度学校自己評価システムシート (県立熊谷商業高等学校)

目指す学校像	学力向上と礼節教育を実践し、社会貢献できる専門教養を育成する学校
--------	----------------------------------

重点目標	1 積極的な情報発信に努め、意欲と適性のある生徒を確保することに組織的に取り組む。 2 生徒のコミュニケーション能力、問題解決能力、情報活用能力などの育成とともに基礎学力・資格取得の向上に取り組む。 3 基本的な生活習慣の確立とマナー・ルールの遵守の規律ある学校生活の推進に取り組む。 4 生徒の希望する進路実現に向けて、組織的・体系的な進路指導の充実に取り組む。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	県北地域の中学生数が減少するなか、募集定員確保に危機感を持っている。全職員で本校(商業)の取組等、魅力や特色を情報提供し、中学生や保護者の興味・関心を高める。継続的なホームページの更新や学校説明会等を計画どおりに実施する。	・情報発信の工夫や拡大と生徒募集活動の活性化を図り、志願者数を確保する。	①本校の魅力や特色を積極的に発信するため、計画どおりに学校説明会等を実施する。 ②中学校や塾主催の説明会等にも積極的に参加する。 ③中学1、2年生対象の説明会に参加し、早期から「商業」という学科を理解させる。 ④ホームページの随時更新を行う。	①②③志願者数の確保ができたか。また、計画どおりに、工夫、特色のある学校説明会等に参加できたか。 ④ホームページの更新回数及びアクセス数	①②③情報処理科の募集定員が40名となった。普通科志向の傾向が強い中、商業科において、定員を確保することができなかった。 ④学校の特色や学校行事、学校説明会等、情報発信を積極的にを行い、アクセス数もプラス5%となった。	b	・生徒募集については、本校主催の学校説明会や中学校、外部機関主催の学校説明会を計画的かつ積極的に行ってきた。しかし、十分な結果が得られなかった。次年度の生徒募集に向け、学校説明会の内容や取組について、検討を行いたい。
2	学習意欲の高揚とともに、家庭学習の習慣化、資格取得率の向上が課題である。「朝学習」の充実や十分な補習体制の構築、授業改善など、基礎学力向上のための取組強化が必要である。一方で、高度資格取得者向け特別講座等も引き続き実施する。	・基礎学力の向上とより高度な資格取得を実現させる。	①生徒の理解度向上に向けた授業改善を行う。 ②工夫した「朝学習」を実施する。 ③資格取得に向けた補習を実施する。 ④高度資格取得者向けの特別講座を実施する。 ⑤授業公開を実施する。	①生徒が達成感・成就感を得られる授業が展開できたか。 ②資格取得や定期考査対応の「朝学習」を実施したか。 ③④検定前の補習や高度資格取得者向けの特別講座を実施し、合格者数が目標に到達したか。 ⑤授業公開を実施したか。	①個々の生徒に、より高度な資格取得を実現させるため、理解度に応じたクラス展開を行い、達成感・成就感が感じられるよう工夫した。 ②「朝学習」では、基礎学力の向上や検定対策、定期考査対応等年間をととして、計画的に実施した。 ③④夏季休業中、高度資格取得の講習会を実施した。 ⑤年次研修等で、授業公開を実施した。	b	・年々生徒の学力が低下傾向にある中、多くの生徒が、積極的に資格取得に挑戦している。日々の授業等で努力をしているが、なかなか結果に結びつかない。自信をなくし、学習意欲の低下に陥っている生徒が見られる。改善策として、家庭学習の習慣化が課題である。
3	地元地域からの評判も良く、服装や頭髪、挨拶等生活態度がきちんとしている生徒が大半である。より高い目標を掲げ、成就感や達成感を味わわせることにより自信を持たせ、熊商生としての自己肯定感を育ませる。	・自律心を高め、心豊かな人間性の育成を図る。	①年間をととして、計画どおりに登校指導を実施する。 ②生徒参加型の登校指導を計画どおり行う。 ③ネットトラブル、携帯電話等の指導を強化し、問題発生を未然に防止する。 ④生活指導部や職員会議等で、生徒指導に関する共通理解を深め、いじめや問題行動等の早期発見・早期解決に努める。	①②年間をととしての登校指導及び生徒参加型の登校指導が実施できたか。 ③ネットトラブルの未然防止に向けた指導が、実施できたか。 ④生活指導部や職員会議等で、生徒指導に関する共通理解を図り、いじめや問題行動等の早期発見・早期解決に努めたか。	①②年間をととして、登校指導を実施した。定期的に生徒参加型の登校指導を行い、「挨拶運動」や「駐輪場の整理」等を行った。 ③ネットトラブル防止に向けた講演会等を実施した。臨時的な全校集会を実施するなど、生徒の意識向上に努めた。 ④特に学年単位での共通理解を図り、早期解決に努めた。	a	・今年度より、携帯電話等の利用についてのルールを整備し、校内での利用マナーは大きく改善された。しかし、スマートフォンに関連した問題行動等が増加傾向にあり、指導の工夫が必要かつ急務である。
4	進路状況は、就職・進学ともほぼ100%を達成、学校全体の取組は良好である。ここ数年、四年制大学への進学者が増加傾向にある。さらなる家庭学習及び授業改善等の工夫により、基礎学力の向上を図り生徒個々の希望に合った進路実現を図る。	・志を高めて進路意識を高揚させ、生徒個々の希望に合った進路実現を達成する。	①3年間を通じたキャリア教育を実施する。 ②保護者参加型の進路ガイダンスを実施し、充実を図る。 ③企業訪問を計画的に実施する。 ④四年制大学への進学者を増加させる。	①各学年ごとに計画どおりのキャリア教育が実施できたか。 ②保護者参加型の進路ガイダンスを実施したか。 ③企業訪問を実施したか。 ④四年制大学への進学者が増加したか。	①②進路指導部の計画のもと、各学年ごとにキャリア教育を実施した。3年生では、保護者が参加したガイダンスを行い、進路意識の向上をさせることができた。 ③企業訪問(進路開拓)を行った結果、求人情数も増加した。 ④指定校推薦を中心に、四年制大学の進学者数は、昨年度とほぼ同数であった。	a	・就職希望者は、職種を変えることなく、進路先を決定した。進学希望者においては、四年生大学への進学者数に、大きな増加に至らなかった。生徒のみならず、保護者へも進路意識の向上が必要であり、工夫したガイダンスの実施等が課題である。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成31年 3月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 平成31年度の生徒募集において、募集定員が確保されなかったことは残念であるが、県北地域の中学生数が減少していることも影響として考えられる。次年度にはぜひ改善していただき、創立100年目として新しい熊商を作っていたきたい。また、家庭との連携を十分に図る体制を構築してほしい。 年々生徒の学力が低下傾向にある中、多くの生徒が積極的に「朝学習」に参加しているが、学年が進行すると、遅刻して参加しない生徒が固定化されてくる。不参加者への指導も必要なのではないか。また、これからの社会人として、「読み」、「書き」に加え、コミュニケーション能力を身に付けさせることが、重要である。 スマートフォン等に関連した事故や事件は社会問題にもなっています。社会人となると、職場での注意喚起はほとんどできないことが実情なので、高校在学中に徹底した指導やマナー教育が必要である。また、来年度から二輪車等の運転が可能となるようですが、十分な交通安全指導をお願いしたい。 進路状況は、就職・進学ともほぼ目標を達成している。多くの就職希望の生徒への指導体制は十分なものが。創立100周年を迎え、新しい「熊商」を作り上げていきたいと思います。進学に重点をおいた進路指導に力を注いでほしい。 	

